

## 弘大など共同研究チーム、インフル発症リスク分析

# 5タイプ感染しやすく

解析結果：インフルエンザにかかりやすい特徴的なタイプ

血糖が高め 肺炎の既往あり 多忙・睡眠不足 栄養不良 アレルギーあり



岩木健診の健康ビッグデータの解析結果（大正製薬提供）

全国で流行しているインフルエンザ。今年は過去10年間で最も早い流行期に入っているといわれており、本県でも患者数が増加している。28日には県が今季初となる全6保健所管内に警報を発令。「過去最高レベルで流行中」とし、さらなる感染拡大を懸念する。

研究は「なぜ人によってインフルエンザのかかりやすさが違うのか」という疑問から始まった。研究に携わった同社セルフメディケーション研究開発企画部の藤原健太主事は「岩木健診の超多項目なビッグデータを活用すれば、生活習慣や病歴など複合的な要因の関係性を得られると考えた」と説明した。

研究チームは2020年から、新型コロナウイルス流行前の19年のデータ（20歳以上の住民1062人が対象）を解析した。最初にインフル

エンザに感染したことがあ

その結果、かかりやすい人の特徴として①血糖が高め②肺炎の病歴あり③多忙・睡眠不足④栄養不良（野菜の摂取が少ない）⑤アレルギーあり（アレルギー検査の数値が高く、アレルギー性鼻炎などを発症している）の五つのタイプを見出した。さらに複数のタイプを持つグループで発症リスクが高いことも分かった。

感染症に詳しい内科医・血液専門医の久住英二医師（東京都・立川パークスクリーニック院長）によると、タイプ別の予防策として「生活習慣の改善、体の防御機能を高める食生活」を挙げる。市販されている解

県内全域でインフルエンザが警報レベルに達した。感染拡大を抑えるため、基本的な対策の徹底はもちろん、ワクチン接種の検討が呼び掛けられている中、弘前大学と京都大学、大正製薬（本社東京都）の共同研究チームが分析したインフルエンザ発症リスクに関する研究成果が注目を集めている。弘前大が中心となって取り組む大規模住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」（岩木健診）の健康ビッグデータを活用したもので、個人の体質や生活習慣に合わせた「オーダーメイド型」の対策として感染拡大抑制への寄与が期待される。

（稲葉智絵）

## 岩木健診のビッグデータ活用 分類別 拡大抑止へ期待 予防策

エンザに感染したことがあ

その結果、かかりやすい人の特徴として①血糖が高め②肺炎の病歴あり③多忙・睡眠不足④栄養不良（野菜の摂取が少ない）⑤アレルギーあり（アレルギー検査の数値が高く、アレルギー性鼻炎などを発症している）の五つのタイプを見出した。さらに複数のタイプを持つグループで発症リスクが高いことも分かった。

感染症に詳しい内科医・血液専門医の久住英二医師（東京都・立川パークスクリーニック院長）によると、タイプ別の予防策として「生活習慣の改善、体の防御機能を高める食生活」を挙げる。市販されている解

熱鎮痛薬や総合感冒薬、国が認可する検査キットなどを備えることも対策の一つとし、「自分と家族を守る」ことに加え、必要な人に必要な医療を届けることにもつながる」と話す。

研究に携わった弘前大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター長の玉田嘉紀教授は「健康寿命延伸に寄与する知見が得られたことをうれしく思う。今回の解析手法は他の感染症への応用が期待できる」と述べた。

研究成果は8月、国際的な自然・健康科学分野の学術雑誌「サイエンティフィック・リポーツ」に掲載された。